1988 3/9

1945・8・6 ヒロシマ

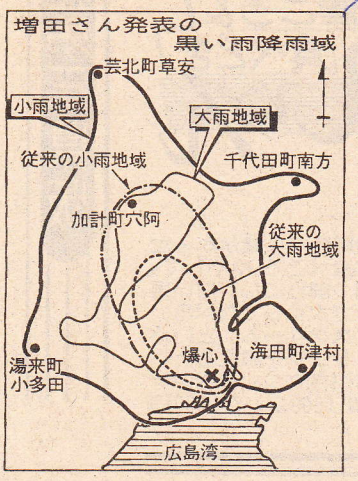
黒い雨

雨域、定説の4倍

国の救済策見直しも

元予報官が調査報告

原爆投下で、広島市一帯に降った死の灰を含む「黒い雨」の降った地域を調べていた元気象研究所予報研究室長・増田善信さん(六四)(東京都狛江市)は八日、最終調査結果をまとめ、「降雨域は、厚生省が救済制度の根拠にしている公式データの四倍の広範囲に及び、降り方も不規則、複雑だった」と発表した。



黒い雨は、核爆発と火災によって生じた積乱雲が降らせる放射性物質を含んだ泥混じりの雨で、浴びると、脱毛や下痢などの症状を引き起こす。

降雨域については、文部省の原子爆弾被害調査委が二十年十二月に行った「原爆災害調査報告」が唯一の公式データ。大雨地域は爆心地から長径十九㌔、短径十一㌔、小雨地域は長径二十九㌔、短径十五㌔のそれぞれ卵形になっている。

厚生省はこれを根拠に、大雨地域を健康診断特例地域に指定し、「みなし被爆者」として被爆者手帳を交付しているが、増田さんはこれらのデータに現地での聞き取り調査や千百八十六通の住民アンケート調査を加え、新たな降雨域を特定した。

それによると、小雨地域は爆心地から北西四十五㌔の芸北町草安に達し、東西幅約二十八㌔。面積は約千二百五十平方㌔・㍍で、従来に比べて四倍にもなっている。大雨地域も北西へ波を打ったように伸び、複雑な馬蹄(ばてい)形で、これまで小雨地域の北限とみられていた加計町穴阿もこの中に含まれている。

このため、国の救済策の見直しを求められることになりそうだが、広島県と市は、近く専門家会議を設置、健康診断特例地域拡大につながる科学的な調査方法を探る。

応援します 受験世代
早稲田
●伝統と実績、熱と力と愛の指導
'88新学年 4/15 開講 受付中
■大学受験総合科(選抜・申込順)〈文系・理系〉志望別、学力別に適正人数の26コース
●早大専科(学部別)●国大専科●私大受験科(JARK、MARCH、理工六大学専科、スーパー特訓、ベイシック)●特別精鋭選抜●短大専科●高三現役合格科等
選抜試験 高卒 次回3月12日